

生成 AI によって作成された画像等を外部向けに公開する場合の法的・実務的リスクに関する包括的ガイド

Gemini Deep Research

はじめに：生成 AI という両刃の剣

生成 AI は、ビジネスの効率化と創造性の飛躍的な向上を約束する一方で、その利用には法的、倫理的、そして企業の評判に関わる複雑なリスクが伴います¹。特に、AI によって生成された画像やその他のコンテンツを、社外向けの資料、ウェブサイト、動画、広告などで公開する行為は、知的財産権の侵害、個人情報や機密情報の漏洩、そして誤情報の拡散といった深刻な問題を引き起こす可能性があります。

本レポートは、企業が生成 AI によって作成された画像を外部に公開する際に直面する多岐にわたる注意点を、法的・実務的観点から網羅的に解説するものです。日本の著作権法の基本原則から、主要な AI サービスプロバイダーの利用規約、国際的な規制動向、そして具体的な企業内ガバナンス体制の構築に至るまで、この新たなテクノロジーを責任を持って活用するための必須知識を提供します。本ガイドが、リスクを適切に管理し、生成 AI の恩恵を最大限に享受するための一助となることを目的とします²。

第 1 章 法的基盤：日本の知的財産権法をナビゲートする

生成 AI コンテンツの公開に伴うリスクを理解する上で、まず日本の法律がそれをどのように扱っているかを知ることが不可欠です。この章では、著作権の成立要件から侵害の判断基準、そして肖像権や商標権といった関連する権利まで、法的枠組みの基礎を解説します。

1.1 著作者は誰か：AI 生成画像はいつ「あなたの著作物」になるのか？

中核となる原則

日本の著作権法は、「思想又は感情を創作的に表現したもの」を「著作物」として保護します⁵。AI 自体は法的な人格を持たないため、「著作者」にはなり得ません⁷。したがって、AI が生成した画像の著作権は、それを利用した人間にのみ帰属する可能性があります。

「創作的寄与」という試金石

AI 生成物が著作物として認められるか否かは、人間の「創作的寄与」（創作的寄与）があったかどうかにかかっています¹。

- **寄与が不十分なケース:** 「面白い話を書いて」といった単純で短いプロンプト（指示）を与えただけでは、通常、創作的寄与は認められません⁷。最小限の入力で「生成」ボタンを押しただけで作られた画像は、人間の著作者が存在しないため「著作物」には該当せず、パブリックドメイン（誰でも自由に利用できる状態）になると解釈されています⁸。
- **寄与が十分なケース:** 人間の関与が深ければ、利用者に著作権が認められる可能性が高まります。文化庁の見解によれば、プロンプトの具体性、独創性、長さ、生成過程における試行錯誤の回数、複数の生成物からの選択という創造的な判断、そして生成後の大幅な加筆・修正といった要素が総合的に評価されます⁶。このプロセスは、利用者が AI を自らの創作的表現のための「道具」として使用したことを示すものです¹⁰。

実務上の意味

創作的寄与を立証できなければ、自社が生成した「オリジナル」画像であっても著作権による保護を受けられず、競合他社に無断で使用されるリスクがあります¹。したがって、詳細なプロンプトの記録を保持し、人間による修正作業を含むワークフローを構築することが、権利を主張する上で極めて重要です。

1.2 侵害の判断基準：「類似性」と「依拠性」を理解する

侵害を構成する二本の柱

日本の著作権法において、侵害が成立するためには、原則として以下の二つの要件が満たされる必要があります。すなわち、AI 生成画像が既存の著作物と**類似**しており（類似性）、かつ、その既存の著作物に**依拠**して作成されたこと（依拠性）です⁵。

類似性（るいじせい）

類似性は、アイデアそのものではなく、具体的な**創作的表現**が似ているかどうかで判断されます。アーティストの「作風」や「画風」といった抽象的な概念は、著作権の保護対象ではありません⁶。侵害と判断されるのは、元となる著作物の「表現上の本質的な特徴」が直接感得される場合です¹⁵。

依拠性（いきよせい）

依拠性は、両者の因果関係を指します。後発の作品が、先行する著作物を利用して創作されたかどうかという点です。

- **直接的な依拠:** AI 利用者が特定の著作物を知っており、意図的にそれを模倣するようなプロンプト（例：「フェルメールの『真珠の耳飾りの少女』のスタイルで少女の絵を生成して」）を使用した場合、依拠性は明白に成立します⁹。
- **推認される依拠:** AI 利用においてより複雑なのがこのケースです。利用者が特定の著作物を知らなかったとしても、AI モデルがその著作物を学習データとして利用していた場合、依拠性が**推認**される可能性があります⁹。これは、AI の学習データの内容を知ることができない利用者にとって、大きな負担となります。生成された

画像が、AI が学習した著作物と酷似している場合、裁判所は依拠性の存在を推認し、利用者は依拠していないことを自ら証明する必要に迫られる可能性があります⁹。

この「依拠性の推認」は、AI 利用者が直面する最大のリスクの一つです。AI 開発段階の合法性とは無関係に、利用段階で責任が問われる根拠となるため、極めて注意が必要です。

1.3 AI の学習と著作権法第 30 条の 4：例外規定の範囲と限界

「非享受目的」の原則

2018 年に改正された著作権法第 30 条の 4 は、柔軟な権利制限規定として知られています。この条文は、著作物に表現された思想または感情の「享受を目的としない利用」（非享受目的）であれば、原則として著作権者の許諾なく著作物を利用できると定めています⁹。この規定により、日本は AI の学習データ収集に関して世界で最も許容的な国の一つと見なされています¹⁸。

例外規定の限界

しかし、この例外規定は万能ではありません。

- **享受目的の併存:** 特定のクリエイターの作風を再現する目的で、そのクリエイターの作品のみを学習させるような行為は、元の著作物の表現を享受する目的が併存すると見なされ、例外の対象外となる可能性があります¹。
- **著作権者の利益を不当に害する場合:** たとえ非享受目的であっても、「著作権者の利益を不当に害することとなる場合」には適用されません⁹。典型的な例として、情報解析用に販売されているデータベースを、対価を支払わずに AI 学習に利用するケースが挙げられます¹⁵。また、海賊版サイトから入手したと知りながら学習に用いる行為も、事業者の責任を問われる可能性を高めます⁹。

利用者が陥る罠

この学習段階での許容的な環境が、公開段階での利用者を保護するものではないという点が、多くの企業が見落とししがちな罠です。法律は、AIを学習させる行為と、AIを利用してコンテンツを生成・公開する行為を明確に区別しています。たとえAIの学習が第30条の4の下で合法的に行われたとしても、そのAIが生み出したアウトプットが既存の著作物と類似し、依拠性が認められれば、それを利用・公開したユーザーが著作権侵害の責任を負うことになります¹⁴。

この構造は、「日本はAI開発天国だ」という安易な認識がいかに危険であるかを示唆しています。国内法の下で事業を行う日本企業であっても、生成物の公開に関しては、学習データの利用がより厳しく制限されている国々と同様のリスク評価が不可欠です。

1.4 著作権を超えて：肖像権、パブリシティ権、商標権の保護

肖像権

肖像権は、自己の容貌などをみだりに撮影・公表されない権利であり、判例によって確立されています²⁴。AIへの適用はまだ新しい論点ですが、特定の個人の写真が学習データに含まれていなくても、複数の特徴が合成された結果、実在の一般人に酷似した画像が生成された場合、その公開は肖像権侵害にあたる可能性があります²⁵。

パブリシティ権

パブリシティ権は、著名人の氏名や肖像が持つ顧客吸引力、すなわち商業的価値を保護する権利です¹。

- **入力と出力の区別:** 著名人の氏名や写真を AI の学習目的で入力する行為自体は、直ちにパブリシティ権の侵害とはなりません¹。
- **生成物の商業利用:** しかし、AI が生成した著名人（またはそれに酷似した人物）の画像を広告などの商業目的で利用する行為は、パブリシティ権の侵害に該当する可能性が極めて高いです¹。これには、特定の俳優の「スタイルで」画像を生成し、その人物のイメージを商業的に利用することも含まれます³⁰。

商標権・意匠権

登録された商標（ロゴなど）や意匠（デザイン）を含む画像を AI が生成し、それを商業的に利用した場合、商標権や意匠権の侵害となる可能性があります¹。これは特に、広告やマーケティング資料を作成する際に重大なリスクとなります。

第 2 章 生成の道具：主要 AI サービスプロバイダーの比較分析

法的理論を理解した上で、次に目を向けるべきは、実際に使用する AI ツールそのものです。法的リスクは抽象的な概念ではなく、各サービスが提供する利用規約（**Terms of Service, ToS**）によって具体的に定義され、その多くが利用者に転嫁されています。この章では、主要な画像生成 AI プラットフォームを比較し、そのリスクプロファイルを明らかにします。

2.1 利用規約の解読：所有権、商用利用、そして責任の所在

所有権か、ライセンスか

利用規約は、生成された画像の所有権が誰に帰属するかを定めています。一部のサービ

スは利用者に完全な所有権を認める一方で³¹、他のサービスは利用者に広範な利用ライセンスを与えつつ、サービス提供者自身もその生成物を使用、表示、派生物を作成するライセンスを保持する場合があります¹⁰。排他的な権利を必要とするビジネスにとって、この違いは決定的に重要です。

商用利用の条件

「商用利用」は、ほぼ例外なく有料プランに紐づけられています³¹。無料プランは、多くの場合、個人的・非商業的な利用に限定されます³¹。さらに、年間収益が一定額（例：100 万ドル）を超える大企業は、より高価な「Pro」や「Enterprise」プランへの加入が義務付けられることがあります³¹。

補償の有無

重要なリスク要因の一つが、AI サービス提供者が「補償」（indemnification）を提供するかどうかです。これは、利用者が生成した画像をめぐって著作権侵害で訴えられた場合に、サービス提供者がその訴訟費用などを負担するという約束です。

- **保護を提供するサービス:** Adobe Firefly はこの点をセールスポイントとしており、ライセンス契約済みの Adobe Stock コンテンツやパブリックドメインの素材で学習させているため、商業的に安全であると謳っています³⁹。OpenAI も、企業向けプランの顧客に対して「Copyright Shield」を提供し、侵害訴訟から保護することを約束しています⁴⁰。
- **リスクを利用者に転嫁するサービス:** 多くのサービスでは、生成物の利用が第三者の権利を侵害しないことを確認する責任は全面的に利用者であり、それによって生じるいかなる法的結果についても利用者が単独で責任を負うと明記されています³⁴。

2.2 主要プラットフォームのリスクプロファイル

Adobe Firefly

「商業的に安全」を謳い文句にしており、**Adobe Stock** のライセンス画像、オープンライセンス画像、著作権が失効したパブリックドメインのコンテンツのみを学習データとしています³⁹。これにより、学習データに起因する著作権侵害のリスクを最小限に抑える設計となっており、リスク回避を重視する企業にとっては低リスクな選択肢と言えます。

Stable Diffusion

これは単一のサービスではなく、オープンソースのモデルです。そのため、リスクは利用形態によって大きく変動します。

- **モデル依存のリスク:** Stability AI が提供する基本ライセンスでは、生成物の所有権は利用者であり、その利用責任も利用者が負うとされています⁴²。しかし、その上で構築された無数の追加学習モデル（ファインチューンモデル）や LoRA（追加学習ファイル）が存在し、それらのライセンスが商用利用を禁止している場合があります³⁸。例えば、一時期人気を博した「Chillout Mix」モデルは、後にライセンスが非商用に変更されたため、変更後に商用利用することは規約違反となります⁴⁵。
- **利用者に求められる高い注意義務:** 利用者は、プロジェクトごとに使用するモデルや LoRA のライセンスを個別に確認し、遵守する義務を負います³⁸。高い柔軟性と引き換えに、利用者自身のリスク管理能力が問われる、上級者向けの選択肢です。

Midjourney

- **所有権とライセンス:** 有料プランの利用者は自身が作成したアセットを所有します¹⁰。しかし同時に、利用者は Midjourney に対し、自身のプロンプトと生成画像を広範かつ永続的に使用するライセンスを許諾することになります¹⁰。これは、機密性の高いプロジェクトには受け入れがたい条件です。Pro プランで利用可能な「ステルスモード」は一定のプライバシー保護を提供しますが、利用規約上は画像の非

公開について「最善の努力をする」との表現に留まっています³¹。

- **不透明な学習データ:** 学習データは公開されていませんが、アーティストらによる集団訴訟では、許諾なくスクレイピング（ウェブサイトからの自動収集）された膨大な著作物が含まれていると主張されています⁴⁷。これは、前述の「推認される依拠性」による著作権侵害リスクが内在していることを意味します。

DALL-E 3 (OpenAI/ChatGPT および Microsoft Copilot 経由)

- **所有権:** OpenAI の利用規約では、同社のポリシーを遵守することを条件に、利用者が作成した出力の所有権は利用者に帰属するとされています³³。
- **商用利用:** 有料プランである ChatGPT Plus や Enterprise で生成した画像は商用利用が許可されています³³。一方で、無料の Microsoft Copilot（旧 Bing Image Creator）経由で生成した画像は、より制限的なライセンス（非商用利用など）が適用される場合が多く、注意が必要です³³。
- **安全対策:** OpenAI は、存命のアーティストのスタイルでの画像生成を拒否したり、有害なプロンプトをフィルタリングしたりする安全対策を講じていると主張しています⁵²。しかし、これらの対策は完全ではなく、最終的な責任は利用者が負うこととなります⁵⁴。

AI サービス提供者は、自らが直面する学習データをめぐる大規模な訴訟（例：*Getty v. Stability AI, Andersen v. Stability AI*）のリスクを軽減するため、利用規約を一種の「リスク移転装置」として活用しています⁴⁷。つまり、サービス提供者自身のデータ収集方法に起因するかもしれない侵害リスクを、法的にエンドユーザーへと転嫁しているのです³⁴。この構造を理解せず利用規約に同意することは、サービス提供者の潜在的な法的責任を、利用者が無自覚に引き受けることを意味します。したがって、サービス選択は技術的・創造的な判断だけでなく、法務・財務的なリスク許容度の判断でもあります。補償の有無は、このリスク構造に対する市場の直接的な反応であり、企業がサービスを選定する際の最優先事項の一つとすべきです。

これらのサービスは、リスクの観点から一つのスペクトラム上に位置づけることができます。一方の端には、自由度は高いものの利用者の責任が極めて重い「ワイルド・ウェスト（開拓時代の西部）」のような Stable Diffusion が存在します³⁸。もう一方の端には、創造の自由は制限されるもののリスクが大幅に低い「ウォールド・ガーデン（壁に囲まれた庭）」である Adobe Firefly があります³⁹。Midjourney や DALL-E 3 は、その中間に位置し、洗練された体験を提供しつつも、不透明なデータと法的な注意点を抱え

ています¹⁰。企業のツール選択は、そのリスク許容度と具体的な用途に厳密に整合させる必要があります。

表 1：主要画像生成 AI サービスの比較分析

AI サービス	生成物の所有権	商用利用権	学習データの透明性	補償の提供	主要なリスク要因
Midjourney	利用者が所有（ただし、Midjourney への広範なライセンス許諾が必須） ³¹	有料プランで許可 ³¹	不透明・非公開 ⁴⁷	なし	機密性の高いプロジェクトには不向きなライセンスバック。学習データ由来の侵害リスク。
Stable Diffusion (基本モデル)	利用者が所有（ただし、利用する追加学習モデルのライセンスを要確認） ⁴²	モデルのライセンスに依存 ³⁸	オープンソースだが、追加学習モデルは多岐にわたる	なし	利用者によるモデルごとのライセンス確認が必須。デューデリジェンスの負担が大きい。
DALL-E 3 (ChatGPT 経由)	利用者が所有 ³³	有料プランで許可 ³³	不透明・非公開	Enterprise プラン顧客に「Copyright Shield」を提供 ⁴⁰	プラットフォームの利用規約・ポリシー違反のリスク。無料版での商用利用は不可。
Adobe Firefly	利用者が所有 ³⁹	全てのプランで許可	Adobe Stock のライセンス画像、パブリックドメイン等 ³⁹	あり	侵害リスクは低いですが、Adobe のエコシステムに依存。

第3章 グローバルな文脈：国際規制と画期的な訴訟

オンラインでコンテンツを公開するということは、日本の法律だけでなく、グローバルな法規制の対象となることを意味します。特に、米国と欧州連合（EU）の動向は、日本企業にとっても無視できない影響を及ぼします。これらの地域の法制度は、日本のものより厳格な側面が多く、グローバルなコンプライアンス戦略を立てる上で不可欠な知識となります。

3.1 欧州連合（EU）のAI法：透明性、オプトアウト、そして域外適用

リスクベースのアプローチ

EU AI 法は、AI システムをそのリスクレベルに応じて分類し、異なる義務を課す包括的な規制です⁵⁹。

生成AIに対する主要な義務

- **透明性の義務:** 生成AIシステムは、生成したコンテンツがAIによるものであることを開示しなければなりません⁵⁹。これは一部のサービスプロバイダーが自主的に設けているポリシーとも一致します¹。
- **著作権法の遵守:** サービス提供者は、EUの著作権法を尊重するための社内ポリシーを整備・実行する義務を負います。これには、権利者が機械判読可能な形式（例：robots.txt ファイル）でテキスト・データマイニング（TDM）を拒否する意思表示（オプトアウト）をしている場合、これを尊重することが明確に含まれます⁶¹。
- **学習データの要約の公表:** 提供者は、学習に使用したコンテンツについて「十分に

詳細な要約」を作成し、公に利用可能にしなければなりません⁵⁹。これは、多くの現行サービスが採用している不透明な慣行からの大きな転換を意味します。

域外適用

EU AI 法は、事業者の所在地や AI の学習場所を問わず、EU 市場に製品やサービスを提供するすべての AI 提供者に適用されます⁶¹。これは、日本企業が EU 向けのビジネスで AI 生成コンテンツを使用する場合、これらの厳格な規則に従う必要があることを意味します。この「グローバル・コンプライアンスの罠」は、多くの日本企業が認識していない重大なリスクです。自社の所在地が日本であっても、コンテンツの閲覧者が EU にいれば、EU 法の適用を受ける可能性があるのです。したがって、外部公開するコンテンツについては、最も厳しい規制（現時点では EU AI 法）を基準とした「最高水準のコンプライアンス」を目指すことが、国際的な法的トラブルを回避する唯一の道筋となります。

3.2 米国の「フェアユース」を巡る攻防：主要訴訟からの教訓

「フェアユース」ドクトリン

日本の特定の例外規定とは異なり、米国では著作物の無許諾利用が許されるかどうかは、曖昧で事例ごとに判断される 4 つの要素からなる「フェアユース」テストに委ねられます¹⁹。その要素とは、(1)利用の目的と性格、(2)著作物の性質、(3)利用された部分の量と実質性、(4)利用が著作物の潜在的市場または価値に与える影響、です⁶⁵。

Andersen et al. v. Stability AI, Midjourney, and DeviantArt (アーティスト訴訟)

- 中核的な主張: アーティストたちは、自らの作品が無断で AI モデルの学習に使用

され、AI が特定のアーティストの「スタイルで」画像を生成する能力は、著作権侵害およびその他の権利侵害にあたりと主張しています⁴⁷。

- **裁判所の判断:** 裁判所は、Stability AI が学習目的で画像を複製・保存したという主張に基づき、直接的な著作権侵害の訴えは進行を認めました⁶⁹。一方で、生成物が「二次的著作物」にあたりという主張は、生成物が元の作品の直接的なコピーではないため、立証がより困難であると示唆されています⁴⁷。この訴訟は、著作権法では保護されにくいアーティストの「スタイル」をいかに法的に保護するかという、新たな論点を浮き彫りにしています⁷⁰。

Getty Images v. Stability AI (ストックフォト訴訟)

- **中核的な主張:** Stability AI が、Getty Images のデータベースから 1200 万点以上の画像をライセンスなく複製し、Stable Diffusion の学習に利用したとされています⁷²。AI が生成した画像の中に、歪んだ Getty Images のウォーターマーク（透かし）が含まれていることが、直接的な複製を示す有力な証拠として挙げられています⁷³。
- **示唆:** この訴訟は、商業データベースのスクレイピングの合法性に真っ向から挑戦するものであり、フェアユースの第 4 要素である「市場への影響」に関する重要な判例となる可能性があります⁷⁰。

Thaler v. Perlmutter (AI 著作者訴訟)

- **中核的な判断:** 米国裁判所は、人間の創造的関与なしに AI が完全に自律的に生成した作品は、著作権保護の対象とはならないと明確に判断しました⁷⁴。これは、日本でも見られる「創作的寄与」の基準を裏付けるものであり、知的財産権を確保するためには人間の関与が不可欠であることを示しています。

これらの訴訟は、単なる個別の紛争ではありません。これらは AI サービス提供者の企業ポリシーを形成する主要な駆動力となっています。OpenAI の「Copyright Shield」⁴⁰ は

New York Times v. OpenAI のような訴訟の脅威への直接的な対応策であり、Adobe の「商業的に安全な」Firefly³⁹ は、Stability AI が直面する法的な泥沼を回避するための

戦略的ビジネスモデルです。DeviantArt のポリシー変更も、ユーザーの反発と訴訟が直接的な原因でした⁶⁸。将来のリスクを予測するためには、法律を読むだけでなく、現在進行中の訴訟を注視することが不可欠です。今日の訴状で争われている論点が、明日の利用規約や新機能となるのです。

3.3 比較スナップショット：日本 vs. 米国 vs. EU

- **学習段階:** 日本が最も許容的（非享受目的）²⁰。EU は中程度（権利者によるオプトアウトが可能）⁶¹。米国は最も不確実（ケースバイケースの「フェアユース」判断）¹⁹。
- **生成・利用段階の侵害:** 3つの法域すべてで、最終的な生成物に関する侵害判断は「類似性」と「依拠性」という同様の基準が適用されます⁹。
- **著作者性:** 3つの法域すべてで、著作権保護の対象となるためには人間の著作者、または創造的な関与が必要です⁷。

第4章 企業行動のフレームワーク：ガバナンスと実践的リスク軽減策

法理論とリスク分析を、企業が直ちに実行可能な具体的な行動計画へと転換することがこの章の目的です。抽象的な議論から脱却し、日々の業務に組み込めるガバナンス体制と実践的なチェックリストを提示します。

4.1 企業 AI ガバナンスポリシーの構築

なぜ不可欠か

公式なポリシーがなければ、企業は一貫性のない利用、意図しないデータ漏洩、そして法規制違反のリスクに晒されます²。責任ある形で AI 活用を拡大するためには、明確なフレームワークが不可欠です⁶⁰。

AI ガバナンスポリシーの主要構成要素

- **目的と範囲の定義:** どの AI ツールが承認され、どの部署で、どのような目的（例：マーケティング用の試作品制作か、最終的な製品デザインか）に使用できるかを明確に規定します⁸⁷。
- **役割と責任の確立:** 法務、IT、セキュリティ、事業部門を含む部門横断的な AI ガバナンス委員会を設置し、ツールの審査、利用者トレーニング、インシデント対応の責任者を定めます⁶⁰。
- **倫理原則の制定:** 公平性、透明性、説明責任、プライバシー保護といった倫理原則を文書化します⁸³。これには、有害なステレオタイプや偏見のあるアウトプットを避けるというコミットメントも含まれます。
- **データ取扱規則の策定:** 個人を特定できる情報（PII）や企業の機密情報（企業秘密、財務データ、ソースコードなど）を、パブリックな AI ツールに入力することを明確に禁止します¹。
- **コンプライアンスと監査:** AI の利用状況を定期的にレビュー・監査し、社内ポリシーや変化する法律への準拠を確認するプロセスを定めます⁸⁵。

4.2 公開利用のための実践的チェックリスト：プロンプトから公開まで

このチェックリストは、法務部門が作成したポリシーを、マーケティングやデザインといった現場のチームが日々の業務で実行するための具体的なワークフローです。AI ガバナンスは、法務部の棚に眠る文書ではなく、運用上の現実でなければ意味がありません。

- **ステップ 1: ツールとモデルの選定**
第 2 章のリスク分析に基づき、用途に適したツールを選択します。注目度の高い商業利用では、学習データが透明で法的補償が提供されるツール（例：Adobe Firefly, OpenAI の Enterprise プラン）を優先します³⁹。Stable Diffusion のよう

なオープンソースツールを利用する場合は、使用する特定のモデルのライセンスを徹底的に文書化し、検証します³⁸。

- **ステップ 2：「クリーン」なプロンプトエンジニアリング**
 - **直接的な参照の回避:** 特定のアーティスト、キャラクター、著作物の名称を含むプロンプト（例：「スタジオジブリ風」「ミッキーマウスの写真」）は使用しません¹。これは二次的著作物を意図的に作成しようとする行為であり、明確な「依拠性」を成立させます。
 - **抽象的な概念に集中:** スタイル、雰囲気、構図、技法といった、記述的で抽象的な言葉を用いることに注力します（例：「夕暮れの港を描いた、鮮やかで印象派風の油絵」）⁹⁹。
- **ステップ 3：「創作的寄与」の確保**
 - **プロセスの文書化:** プロンプト、試行錯誤の過程、意思決定のプロセスを記録します。この記録は、万が一自社の著作権が争われた際に「創作的寄与」を証明する証拠となり得ます⁶。
 - **修正と洗練:** 生成された画像をそのまま使用せず、積極的に修正・改良を加えます。最善の方法は、AI 生成画像をより大きな作品のベースや構成要素として利用し、人間が創作した要素（グラフィックデザイン、テキスト、写真合成など）を大幅に加えることです¹。これにより、著作者としての主張が強化されます。
- **ステップ 4：公開前のデューデリジェンスと類似性チェック**
 - **人間によるレビューは必須:** 外部に公開する前には、必ず人間が生成画像をレビューし、潜在的な問題がないかを確認します⁵⁷。
 - **侵害の有無を確認:** 画像が著名なアート作品、キャラクター、実在の人物に類似していないかを評価します²⁶。一次的なチェックとして、リバースイメージ検索ツール（例：Google レンズ）を活用します。リスクの高い用途では、専門の画像類似性チェックツールの利用も検討しますが、これらも万能ではないことを理解しておく必要があります¹⁰³。
 - **意図しない要素の確認:** 歪んだロゴやウォーターマーク（Getty の事例など）、その他、AI が保護されたソースから複製した可能性を示唆するような痕跡がないかを確認します⁷³。
- **ステップ 5：透明性と開示**
 - **プラットフォーム規則の遵守:** OpenAI などの一部のプラットフォームは、特定の文脈においてコンテンツが AI によって生成されたものであることを開示するよう求めています¹。
 - **信頼の構築:** 法的に義務付けられていない場合でも、「AI 支援」「AI 生成」といったラベルを付与することを検討します。これは視聴者との信頼を構築し、

問題が発生した際のレピュテーションダメージを軽減する効果があります⁵⁹。
責任ある倫理的な利用姿勢を示すことにも繋がります。

4.3 機密情報の管理：情報漏洩の防止

中核となるリスク

従業員が企業の機密データ（例：製品計画、ソースコード）や顧客の個人情報をパブリックな AI ツールに入力し、そのデータが将来のモデル学習に使用され、結果として他の利用者に漏洩するリスクがあります¹。

軽減戦略

- **明確な禁止:** AI ポリシーにおいて、機密情報や個人情報をパブリックな AI モデルに入力することを一切禁止する規則を設けます²⁸。
- **セキュアな企業向けツールの利用:** 入力データが学習に使用されず、暗号化されることが保証されている企業向け AI ソリューション（例：ChatGPT Enterprise, Azure OpenAI Service）を利用します¹⁰⁸。
- **従業員教育:** 何が機密情報にあたるのか、そしてそれを AI ツールに入力することのリスクについて、定期的な研修を通じて従業員を教育します⁸⁴。サムスン電子で発生したソースコード漏洩事件は、研修で用いるべき強力なケーススタディです⁹⁴。

著作権を確保するための「創作的寄与」の法的要件⁷と、侵害やバイアス、ハルシネーション（もっともらしい嘘の出力）を検知するための人間によるレビューの技術的必要性¹⁰⁰は、同じ結論を指し示しています。すなわち、完全に自動化された AI コンテンツ生成パイプラインは、法的にも評判の面でも極めて無謀であるということです。企業は、着想、洗練、最終レビューといった重要なチェックポイントで人間の介入を

義務付けるように AI ワークフローを設計すべきです。この「ヒューマン・イン・ザ・ループ（人間参加型ループ）」は、最適化によって排除すべきボトルネックではなく、

法的コンプライアンスと品質管理の両方を担保する中核的なリスク軽減戦略なのです。

第5章 技術の最前線：新たな解決策と将来展望

現在の法的・政治的な解決策だけでなく、AI コンテンツの未来を形作る技術的・市場的な対応に目を向けることが、長期的なリスク管理には不可欠です。この章では、コンテンツの来歴を証明する技術や、クリエイター経済圏からの対抗策について探ります。

5.1 来歴の確立：C2PA とデジタルウォーターマーキングの役割

来歴の問題

デジタルコンテンツの根本的な問題は、その出所や編集履歴を検証することの困難さです。この問題は、説得力のある偽情報（ディープフェイク）を生成できるAIによって、さらに深刻化しています¹¹⁰。

C2PA (Content Provenance and Authenticity のための連合)

Adobe や Microsoft などが共同で設立したオープンスタンダードで、コンテンツの検証可能な「デジタル栄養成分表示」を作成することを目的としています¹¹³。

- **仕組み:** 「コンテンツクレデンシャル」と呼ばれるメタデータをファイルに安全に埋め込み、誰が、どのツール（AI を含む）で、いつ作成し、その後どのような編集が加えられたかを記録します¹¹²。この情報の真正性は、暗号技術を用いたデジタル署名によって保証されます¹¹³。
- **採用状況:** Adobe（Photoshop, Firefly）、Google（検索, YouTube）、カメラメーカー（Leica, Sony）といった主要企業が C2PA を導入しており、業界標準化への

動きが加速しています¹¹⁵。

デジタルウォーターマーキング（電子透かし）

- **可視型と不可視型:** ウォーターマークには、ロゴのように目に見えるものと、画像のピクセルデータやテキストの統計的パターンに埋め込まれる不可視のものがあります¹¹⁹。
- **AI によるウォーターマーキング:** AI 技術を用いることで、圧縮、トリミング、その他の編集に耐えうる、非常に堅牢で知覚できないウォーターマークを作成できます⁴¹。一部の技術では、拡散モデルの潜在空間や初期ノイズにウォーターマークを埋め込むことで、生成プロセスと不可分なものにしています¹²²。
- **目的:** ウォーターマークは、コンテンツが AI 生成であることを示すと同時に、特定のモデルや利用者にまで遡って追跡することを可能にし、知的財産保護や不正利用の検知に貢献します⁴¹。

限界

これらの技術も万能ではありません。ウォーターマークは攻撃によって除去される可能性があり、C2PA は対応ツールでなければ機能せず、またコンテンツの「真実性」ではなく「来歴」を証明するに過ぎません⁴¹。

5.2 クリエイター経済圏の対抗策：防衛ツールと報酬モデル

アーティストのための防衛ツール

望まないスクレイピングに対抗するため、アーティストが自らの作品を守るためのツールが登場しています。

- **Glaze と Mist** : これらのツールは、画像に微細な「クローキング（偽装）」を施します。人間には正常に見えますが、AI モデルにとってはピクセルデータが歪んで見えるため、アーティストのスタイルを正確に学習することを妨げます¹²⁹。
- **プラットフォームレベルの保護**: DeviantArt や「Oneup」のようなプラットフォームは、スクレイピングをブロックしたり、「noai」タグを自動付与したりする機能を実装していますが、その実効性については議論があります⁷⁸。

報酬モデル：「データライセンス」への転換

- **問題**: クリエイターは、自らの作品が許諾も報酬もなく商業的な AI モデルの学習に利用され、労働の価値が貶められていると感じています⁷¹。
- **解決策**: プラットフォームが自らのユーザー生成コンテンツを AI 企業にライセンス供与し、その収益を元のクリエイターに分配するという新しいビジネスモデルが生まれつつあります。これにより、AI 企業は合法的に高品質なデータを調達でき、クリエイターは対価を得ることができます。
- **事例**: Adobe Stock は、Firefly の学習に作品が使用されたコントリビューターに報酬を支払っています³⁹。note は、ライターが自身のテキストを AI 学習用にライセンス提供することに同意（オプトイン）すれば、収益の一部を受け取れる仕組みを導入しました¹³¹。これは世界的な潮流であり、Reddit や Stack Overflow も同様のモデルを追求しています¹³¹。

法律や裁判所の動きは緩やかですが、市場は法的・倫理的な空白を埋めるための解決策を急速に生み出しています。「商業的に安全な」モデル、クリエイターへの報酬モデル、そして防衛ツールはすべて、市場主導の対応です。法的な確実性を待つのではなく、こうした市場発の解決策（ライセンスデータに基づくモデルの利用や、報酬エコシステムへの参加など）を積極的に採用することが、単に法律や判決を待つよりも、より機敏で効果的なリスク管理方法と言えるでしょう。

5.3 変わりゆく情勢：法改正と進行中の訴訟の監視

- **法改正の動き**: 法的状況は常に変動しています。日本では継続的に法改正の議論が行われ⁹、EU AI 法は段階的に施行されます⁵⁹。米国でも新たな法案や大統領令が

次々と出ています⁴¹。最新情報を常に把握することが不可欠です⁹³。

- **裁判所の動向を注視:** NY タイムズ、Getty、Andersen などが関わる主要な訴訟の結果は、業界の今後を長年にわたって方向づける強力な判例となるでしょう⁵⁶。また、新たな法的論点を提起する新しい訴訟も絶えず提起されています⁴⁹。
- **将来を見据えた対応:** 企業の AI ポリシーは、新たな法律、判決、技術の登場を反映して定期的に更新される「生きた文書」でなければなりません¹⁰⁷。

C2PA や堅牢なウォーターマーキングといった技術が主要なテック企業やメディアによって広く採用されることで、デジタルエコシステムは、検証可能で信頼できる来歴を持つコンテンツと、そうでないコンテンツの二つに分かれていくでしょう。時間が経つにつれて、検証されていないコンテンツはプラットフォーム、検索エンジン、そして一般市民からますます懐疑的に扱われるようになります。企業にとって、これらの技術を通じてコンテンツの真正性を証明することは、信頼性の証となり、競争上の優位性となるはずです。これらの標準を無視することを選択すれば、自社のコンテンツを「信頼できない」カテゴリーに追いやることになり、評判を損なう結果を招きます。

第 6 章 結論と戦略的提言

本レポートで詳述してきた法的、技術的、倫理的リスクを統合し、経営層が取るべき戦略的な行動指針を提示します。

6.1 中核リスクの要約：経営層向けレビュー

企業が直面する主要なリスクベクトルは以下の通りです。

- **法的責任:** 著作権、商標権、肖像権・パブリシティ権の侵害。リスクは利用者の行動とコンテンツの公開地域によって決定される。
- **レピュテーション（評判）リスク:** 非倫理的なデータ収集、偏見や有害なコンテンツの生成、誤情報の拡散といった行為との関連付けによるブランドイメージの毀損。
- **データセキュリティ:** パブリックな AI ツールの不適切な使用による、企業の機密情報や個人情報の漏洩。

- **知的財産の喪失:** 創作的寄与の不足により、自社で生成した AI コンテンツに対する著作権を確保できず、他者に自由に利用されるリスク。

6.2 責任ある AI 導入のための戦略的必須事項

- **積極的なガバナンスの推進:** AI ガバナンスを、コンプライアンス上の障害ではなく、責任あるイノベーションを可能にする戦略的要素として位置づける⁶⁰。
- **透明性の優先:** AI の利用について顧客や社会に対して透明性を保ち、信頼を構築する。また、社内チームに対してもポリシーとリスクを透明化する¹⁰⁶。
- **最も厳格な基準の採用:** グローバルなデジタル世界においては、最も厳格な適用法規（現時点では EU AI 法）に社内ポリシーを整合させ、普遍的なコンプライアンスを確保する。
- **人材への投資:** 「ヒューマン・イン・ザ・ループ」は最も重要なリスク管理要素である。従業員のトレーニングに投資し、彼らが AI 関連リスクに対する第一の防衛線となるようエンパワーメントする⁹⁰。

6.3 リスク回避とイノベーションを両立させるための最終提言

1. **「商業的に安全な」ツールの利用を義務化する:** すべての外部向け、特に注目度の高い商業コンテンツについては、法的補償を提供し、ライセンス許諾済みまたはパブリックドメインのデータで学習された AI サービスの利用を義務付ける。
2. **厳格な「プロンプトから公開まで」のワークフローを導入する:** 第 4.2 章で概説した複数ステップのチェックリストを、コンテンツ制作プロセスにおける交渉の余地のない必須事項として形式化し、徹底する。
3. **中央集権的な AI ガバナンス委員会を設置する:** 新しいツールの審査、AI ポリシーの更新、コンプライアンスの監督を担当する、公式かつ部門横断的な組織を設立する。
4. **すべての機密情報のパブリック AI への入力を禁止する:** 企業独自の情報を扱う業務にはセキュアな企業向け AI ソリューションを導入し、そのようなタスクでのパブリックツールの使用を厳格に禁止する。
5. **技術的・法的状況を継続的に監視する:** 主要な訴訟、法改正、C2PA のような新技術の動向を追跡する責任者を任命し、少なくとも年に一度、または重大な進展があ

った場合に企業ポリシーを更新する体制を構築する。

引用文献

1. 生成 AI の利用ガイドライン - Maison AI, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://maisonai.io/pages/gai-usage-guideline>
2. 生成 AI ガイドライン一覧！政府・自治体・企業など、ジャンル別に紹介, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.ai-souken.com/article/ai-generation-guidelines-introduction>
3. 生成 AI の領域に強い弁護士とは？特徴や相談できる事・依頼すべき法務イシューまで, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://houmu-pro.com/property/295/>
4. AI 倫理のガイドライン：企業が直面するリスク管理の新たな基準とは - メンバーズ, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.members.co.jp/column/20241122-ai-ethics>
5. AI が作った作品の権利は誰のもの？著作権の基本を分かりやすく解説 | 堺あきら (Aki) - note, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://note.com/akira_sakai/n/n0f26d280b5f5
6. 生成 AI に関する著作権法上のリスクは？文化庁の「考え方」についても解説 - TD SYNEX BLOG, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://jp.tdsynnex.com/blog/ai/generated-ai-copyright-risks/>
7. AI と著作権 - かまがや総合法律事務所, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.kamagaya-law.com/column/ai.html>
8. 第 1 回：必修科目！AI 作品の著作権は誰にあるのか【生成 AI と著作権】 | Generative AI Portal, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://generative-ai-portal.com/article/ai-copyright>
9. 生成 AI と著作権の現在地 - これまでの経緯・現状と論点の整理 - 参議院, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/rippou_chousa/backnumber/2024pdf/20240920031.pdf
10. AI 生成画像の商用利用と著作権【にじ/ミッドジャーニー】, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://bosukete.com/12799-2/>
11. AI が生成した文章やイラストの著作権はどうなる？著作権侵害にあたるか、弁護士が解説！, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.authense.jp/komon/blog/dx-legaltech/2838/>
12. AI が抱える著作権問題と文化庁が考える 3 つの段階 | 業界の反応や事例も紹介, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.sungrove.co.jp/ai-copyright/>
13. AI と著作権 - 文化庁, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/pdf/93903601_01.pdf
14. AI で生成したものの著作権はどうなる？注意したいポイント, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.hitachi-solutions-create.co.jp/column/technology/ai-copyright.html>
15. AI と著作権の関係等について - 内閣府, 6 月 24, 2025 にアクセス、

- https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_team/3kai/shiryo.pdf
16. 画像生成 AI の著作権は？著作権侵害にあたるケース・あたらないケースを解説, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://gen-ai-media.guga.or.jp/glossary/image-generation-ai-copyright/>
 17. 【知っておきたい】生成 AI 活用と著作権侵害のリスク - パワー・インタラクティブ, 6 月 24, 2025 にアクセス、https://www.powerweb.co.jp/knowledge/columnlist/generative_ai_copyright/
 18. 改正著作権法：AI・ビッグデータ時代の「柔軟な権利制限規定」 - 虎ノ門法律特許事務所, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://chosakukenhou.jp/%E6%94%B9%E6%AD%A3%E8%91%97%E4%BD%9C%E6%A8%A9%E6%B3%95%EF%BC%9Aai%E3%83%BB%E3%83%93%E3%83%83%E3%82%B0%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E6%99%82%E4%BB%A3%E3%81%AE%E3%80%8C%E6%9F%94%E8%BB%9F%E3%81%AA%E6%A8%A9/>
 19. Japan's New Draft Guidelines on AI and Copyright: Is It Really OK to Train AI Using Pirated Materials? | Privacy World, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.privacyworld.blog/2024/03/japans-new-draft-guidelines-on-ai-and-copyright-is-it-really-ok-to-train-ai-using-pirated-materials/>
 20. The US should look at Japan's unique approach to generative AI copyright law, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://insights.manageengine.com/artificial-intelligence/japan-ai-copyright/>
 21. AI Training and Copyright Infringement: Solutions from Asia | TechPolicy.Press, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.techpolicy.press/ai-training-and-copyright-infringement-solutions-from-asia/>
 22. 文化庁「AI と著作権に関する考え方について（素案）令和 6 年 1 月 15 日時点版」の検討, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://storialaw.jp/blog/10470>
 23. 生成 AI による著作権の侵害事例と最新の判例 | 生成 AI 事業者のリスクなどを徹底解説, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://houmu-pro.com/property/297/>
 24. AI 技術により自動生成した人物肖像の利用による狭義の肖像権侵害 - Kobe University, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/0100476940/721%E3%83%BB205.pdf>
 25. AI 技術により自動生成した人物肖像の利用による肖像権侵害 - STORIA 法律事務所, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://storialaw.jp/blog/8424>
 26. 画像生成 AI 活用の法的リスク ~そのビジュアル、使って大丈夫？ (2) リスク回避編 - HintClip, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://hc.kyodoprinting.co.jp/article/2678/>
 27. AI と肖像 | 記事 | 新日本法規 WEB サイト, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.sn-hoki.co.jp/articles/article3170067/>
 28. 南富良野町生成 AI 利用ガイドライン, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.town.minamifurano.hokkaido.jp/wp-content/uploads/2015/03/b3f1c82e08bd9bd0b325c4b9705b95aa.pdf>
 29. 【実例あり】AI 生成コンテンツの商用利用で起きた著作権訴訟 7 選 | デザイナーの教訓 - note, 6 月 24, 2025 にアクセス、

- <https://note.com/mmmiyama/n/n7cf1e517fe21>
30. SNS に AI 作品を投稿する前に知っておくべき著作権の真実 | トラブル回避の 5 ステップ - note, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://note.com/mmmiyama/n/n4e936cfc8245>
 31. Midjourney の規約から商用利用について解説 | taziku / AI×クリエイティブ | 東京・名古屋, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://taziku.co.jp/blog/midjourney-terms>
 32. Midjourney は商用利用が可能？条件や料金プラン、使い方も解説 - ドスパラプラス, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://dosparaplus.com/library/details/001489.html>
 33. DALL-E3 とは？使い方や料金、無料で使う方法を紹介！商用利用も解説, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.ai-souken.com/article/exploring-dall-e-3>
 34. Terms of Service - Midjourney, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://docs.midjourney.com/hc/en-us/articles/32083055291277-Terms-of-Service>
 35. Midjourney(ミッドジャーニー)の商用利用で注意すべきポイントを解説 | AI 総合研究所, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.ai-souken.com/article/commercial-use-midjourney>
 36. Midjourney は商用利用は可？料金や規約/支払い方法などについてご紹介！ - AITech, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://aitechworld.info/midjourney-plan/>
 37. 【無料】画像生成 AI の比較と商用利用の注意点 | 株式会社エアリー：技術ブログ - note, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://note.com/airily_inc/n/nb1c2328da74e
 38. Stable Diffusion は商用利用が可能！著作権やおすすめのモデルも解説 - ドスパラプラス, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://dosparaplus.com/library/details/001486.html>
 39. Adobe Firefly - クリエイティブのための生成 AI, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.adobe.com/jp/products/firefly.html>
 40. Service terms | OpenAI, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://openai.com/policies/service-terms/>
 41. Generative AI and watermarking - European Parliament, 6 月 24, 2025 にアクセス、
[https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/BRIE/2023/757583/EPRS_BRI\(2023\)757583_EN.pdf](https://www.europarl.europa.eu/RegData/etudes/BRIE/2023/757583/EPRS_BRI(2023)757583_EN.pdf)
 42. Stable Diffusion とは？なぜ商用利用におすすめ？種類・選び方・メリット・ビジネス活用方法・実際の出力例・注意点を解説！ - AIMarket, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://ai-market.jp/services/stable-diffusion/>
 43. stable-fast-3d/LICENSE.md at main - GitHub, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://github.com/Stability-AI/stable-fast-3d/blob/main/LICENSE.md>
 44. Artificial intelligence and copyright: use of generative AI tools to develop new content, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://intellectual-property-helpdesk.ec.europa.eu/news-events/news/artificial-intelligence-and-copyright->

- [use-generative-ai-tools-develop-new-content-2024-07-16-0_en](#)
45. Stable Diffusion の画像は商用利用できる！利用規約や著作権を解説 - 優良 WEB, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://yuryoweb.com/stable-diffusion-commercial-use/>
 46. Stable Diffusion の商用利用を解説！モデルやライセンス別の確認方法も, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.ai-souken.com/article/commercial-use-stable-diffusion>
 47. Andersen v. Stability AI Ltd., 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.lutzker.com/wp-content/uploads/2023/12/Andersen-v.-Stability-AI-Ltd.pdf>
 48. DeviantArt and Midjourney deny wrongdoing in copyright infringement lawsuit over in AI image generators - The Art Newspaper, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.theartnewspaper.com/2024/05/10/deviantart-midjourney-stable-diffusion-artificial-intelligence-image-generators>
 49. “Piracy is piracy”: Disney and Universal sue AI image generator Midjourney in a Hollywood first | Nieman Journalism Lab, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.niemanlab.org/2025/06/piracy-is-piracy-disney-and-universal-sue-ai-image-generator-midjourney-in-a-hollywood-first/>
 50. DALL-E3 とは？ChatGPT・Bing と連携した画像生成 AI の使い方や商用利用についてなど解説, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://sogyotecho.jp/dall-e3/>
 51. Terms of use - OpenAI, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://openai.com/policies/row-terms-of-use/>
 52. ChatGPT の画像生成と商用利用に関する注意点 | プチ IT 弁護士の研究日誌 - note, 6 月 24, 2025 にアクセス、https://note.com/it_lawyer/n/n95b3bb28bc94
 53. Usage policies - OpenAI, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://openai.com/policies/usage-policies/>
 54. DALL-E と著作権のガイド：AI 画像は商用利用可能？ - 株式会社 Catch the Web, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://catch-the-web.com/media/dall-e-copyright/>
 55. 【無料あり】DALL-E2・DALL-E3 とは？使い方や商用利用について解説！, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.sungrove.co.jp/dall-e/>
 56. 生成 AI の著作権侵害事例 3 選 | 注意すべき 2 つのポイントも紹介 - AI 総研, 6 月 24, 2025 にアクセス、https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/copyright/
 57. 生成 AI の著作権侵害事例 6 選！著作権侵害を回避する方法も解説 - 株式会社 SHIFT AI, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://shift-ai.co.jp/blog/5514/>
 58. Getty Images v Stability AI - Blackstone Chambers, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.blackstonechambers.com/news/getty-images-v-stability-ai/>
 59. EU AI Act: first regulation on artificial intelligence | Topics - European Parliament, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.europarl.europa.eu/topics/en/article/20230601STO93804/eu-ai-act-first-regulation-on-artificial-intelligence>
 60. Building an AI Governance Framework - ModelOp, 6 月 24, 2025 にアクセス、

- <https://www.modelop.com/ai-governance/ai-governance-framework>
61. The EU AI Act and copyrights compliance - IAPP, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://iapp.org/news/a/the-eu-ai-act-and-copyrights-compliance>
 62. EU AI Act: How Far Will EU Copyright Principles Extend? – Publications - Morgan Lewis, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.morganlewis.com/pubs/2024/02/eu-ai-act-how-far-will-eu-copyright-principles-extend>
 63. 生成 AI による権利侵害に対する諸外国における法制度上の対応（著作権侵害への対応）, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.nttdata-strategy.com/knowledge/reports/2024/240612/>
 64. 【著作権】EU AI 規則（AI Act）が日本企業に与える影響と実務対応の要点 - 那住行政書士事務所, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.nazumi-office.com/post/%E3%80%90%E8%91%97%E4%BD%9C%E6%A8%A9%E3%80%91eu-ai%E8%A6%8F%E5%89%87%E5%BC%88ai-act%E5%BC%89%E3%81%8C%E6%97%A5%E6%9C%AC%E4%BC%81%E6%A5%AD%E3%81%AB%E4%B8%8E%E3%81%88%E3%82%8B%E5%BD%B1%E9%9F%BF%E3%81%A8%E5%AE%9F%E5%8B%99%E5%AF%BE%E5%BF%9C%E3%81%AE%E8%A6%81%E7%82%B9>
 65. US Copyright Office Addresses the Use of Copyrighted Works to Train AI | Baird Holm LLP, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.bairdholm.com/blog/us-copyright-office-addresses-the-use-of-copyrighted-works-to-train-ai/>
 66. Copyrighted Works Used in Generative AI Training – Fair Use or Infringement?, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.olshanlaw.com/Advertising-Law-Blog/copyrighted-works-used-in-generative-ai-training-fair-use-or-infringement>
 67. Andersen et al v. Stability AI Ltd. et al, Docket No. 3:23-cv-00201 (ND Cal. Jan 13, 2023 - IPWatchdog.com), 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://ipwatchdog.com/wp-content/uploads/2023/02/Andersen-et-al-v.-Stability-AI.pdf>
 68. How DeviantArt died: A.I. and greed turned a once-thriving community into a ghost town., 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://slate.com/technology/2024/05/deviantart-what-happened-ai-decline-lawsuit-stability.html>
 69. Andersen v. Stability AI Ltd. | Loeb & Loeb LLP, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.loeb.com/en/insights/publications/2023/11/andersen-v-stability-ai-ltd>
 70. 生成 AI の著作権侵害の事例 7 選！企業のリスクと具体的対策を解説 - 株式会社アドカル, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.adcal-inc.com/column/copyright-infringement/>
 71. AI 生成コンテンツの商用利用における著作権・倫理問題 | せきとば ~ChatGPT と暮らす日々~, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://note.com/life_chatgpt/n/n5e1df8677cc1

72. Generative AI in the courts - Getty Images v Stability AI, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.penningtonslaw.com/news-publications/latest-news/2024/generative-ai-in-the-courts-getty-images-v-stability-ai>
73. IN THE UNITED STATES DISTRICT COURT FOR THE DISTRICT OF DELAWARE GETTY IMAGES (US), INC. Plaintiff, v. STABILITY AI, INC. Defen - Copyright Alliance, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://copyrightalliance.org/wp-content/uploads/2023/02/Getty-Images-v.-Stability-AI-Complaint.pdf>
74. Thaler v. Perlmutter - U.S. Court of Appeals for the D.C. Circuit, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://media.cadc.uscourts.gov/opinions/docs/2025/03/23-5233.pdf>
75. WIPO Lex - Thaler v. Perlmutter, No. 22-CV-384-1564-BAH, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.wipo.int/wipolex/en/text/588769>
76. Thaler v. Perlmutter | Loeb & Loeb LLP, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.loeb.com/en/insights/publications/2025/03/thaler-v-perlmutter>
77. THALER v. PERLMUTTER (2023) - FindLaw Caselaw, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://caselaw.findlaw.com/court/us-dis-crt-dis-co/114916944.html>
78. Generative AI from DeviantArt Creates Controversy - DeepLearning.AI, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.deeplearning.ai/the-batch/generative-ai-from-deviantart-creates-controversy/>
79. DeviantArt's New A.I. Generator Angers Artists for Promising—But Failing—to Protect Creator's Rights | Artnet News, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://news.artnet.com/art-world/deviantart-dreamup-ai-generator-creators-rights-ip-controversy-2210607>
80. The EU AI Act's Copyright Loophole: A Threat to Creative Rights? - Euro Prospects, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://europrospects.eu/the-eu-ai-acts-copyright-loophole-a-threat-to-creative-rights/>
81. Comparative Analysis of Copyright Laws for AI-Generated Works in the USA, EU, and Japan, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.sonisvision.in/blogs/comparative-analysis-of-copyright-laws-for-ai-generated-works-in-the-usa-eu-and-japan>
82. Approaches to IP protection for works generated by artificial intelligence European standards - AIPPI, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.aippi.org/news/approaches-to-ip-protection-for-works-generated-by-artificial-intelligence-european-standards/>
83. AI 倫理とは? - 生成 AI を開発・活用するために企業が考えなければいけないこと - 大和総研, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.dir.co.jp/world/entry/solution/ai-ethics>
84. 生成 AI のリスクを整理する | 3つの観点でリスクと対策を解説 - NRI セキュア, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.nri-secure.co.jp/blog/generative-ai-risks>
85. Enterprise AI Governance: Essential Strategies for Modern Organizations - Transcend.io, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://transcend.io/blog/enterprise-ai-governance>
86. Why You Need an AI Policy in 2025 & How to Write One [+ Template] -

- Secureframe, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://secureframe.com/blog/ai-policy>
87. Building an Enterprise AI Governance Plan - ServiceNow, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://www.servicenow.com/workflow/learn/building-enterprise-ai-governance-plan.html>
 88. Drafting an AI Risk Management Policy – A Beginner's Guide for (Re)Insurers - Finalyse, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://www.finalyse.com/blog/drafting-an-ai-risk-management-policy-a-beginners-guide-for-reinsurers>
 89. The Ultimate AI Governance Guide: Best Practices for Enterprise Success - Syncari, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://syncari.com/blog/the-ultimate-ai-governance-guide-best-practices-for-enterprise-success/>
 90. The enterprise guide to AI governance - IBM, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://www.ibm.com/thought-leadership/institute-business-value/en-us/report/ai-governance>
 91. DNP グループ AI 倫理方針, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://www.dnp.co.jp/corporate/dx/ai-ethicspolicy/index.html>
 92. AI 利活用ガイドライン, 6 月 24, 2025 にアクセス、 https://www.soumu.go.jp/main_content/000624438.pdf
 93. 【2025】生成 AI 開発で注意すべき法律は？著作権法を中心に注意点を弁護士が解説, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://kai-law.jp/web3-legal/law-for-generation-ai/>
 94. 【2024 年最新】生成 AI による事件 5 選 | 情報漏洩～詐欺事件まで - AI 総研 - メタバース総研, 6 月 24, 2025 にアクセス、 https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/incident/
 95. A guide to AI risk management - The Corporate Governance Institute, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://www.thecorporategovernanceinstitute.com/insights/guides/a-guide-to-ai-risk-management/>
 96. 商用利用可能な画像生成 AI 一覧！著作権違反しないためのポイントも解説, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://shift-ai.co.jp/blog/5711/>
 97. Getty Images、中小企業や個人向け画像生成 AI ツール「Generative AI by iStock」発表 - Aismiley, 6 月 24, 2025 にアクセス、 https://aismiley.co.jp/ai_news/getty-images-generative-ai/
 98. 社内のクリエイターに向けて発表した「画像生成 AI ガイドライン」策定の裏側 - サイバーエージェント, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://www.cyberagent.co.jp/way/list/detail/id=30017>
 99. AI 活用時の著作権問題 | 知らないと危険な落とし穴と安全対策 - AI - 株式会社プラネット, 6 月 24, 2025 にアクセス、 <https://advertisingplanet.co.jp/media/2025/05/30/ai%E6%B4%BB%E7%94%A8%E6%99%82%E3%81%AE%E8%91%97%E4%BD%9C%E6%A8%A9%E5%95%8F%E9%A1%8C%E7%9F%A5%E3%82%89%E3%81%AA%E3%81%84%E3%81%A8%E5%8D%B1%E9%99%BA%E3%81%AA%E8%90%BD%E3%81%A8%E3%81>

[%97%E7%A9%B4/](#)

100. 生成 AI で作った画像は商用利用できる？リスクや注意点を徹底解説 - 侍エンジニア, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://generative-ai.sejuku.net/blog/3937/>
101. 【生成 AI の注意点とは？】 利用時に気をつけること・リスクとその対策を紹介 - 株式会社 Elcamy (エルカミー) | AI・機械学習・分析を支援する Google Cloud パートナー, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://elcamy.com/blog/ai-illegal-02>
102. 画像生成 AI 活用の法的リスク ~そのビジュアル、使って大丈夫？ (1) リスク理解編 - HintClip, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://hc.kyodoprinting.co.jp/article/2662/>
103. AI 判定ツールは信用できる？！自社コンテンツを保護するためにできること - Sambushi, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://sambushi.jp/article/ai-tool/>
104. 博報堂DYホールディングス、画像類似度チェッカーツールを Acompany 社と共同開発 - PR TIMES, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000112.000036543.html>
105. コンテンツ作成における生成 AI の正しい利用法を Google が解説 - 海外 SEO 情報ブログ, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.suzukikenichi.com/blog/google-explains-the-proper-use-of-generative-ai-to-create-content/>
106. 生成 AI コンテンツの透明性 ~責任と権利の最前線 - SC デジタル, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.scdigital.co.jp/knowledge/2356/>
107. 生成 AI によって生じるセキュリティリスクとは？対策も解説 - インターコム, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://www.intercom.co.jp/malion/column/generative-ai-security/>
108. 中小企業のための「生成 AI」活用入門ガイド - 東京商工会議所, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://www.tokyo-cci.or.jp/chusho/tcci_generativeai_guide_for_smes_ver05.pdf
109. 法人向け生成 AI サービス「Stella AI for Biz」 | ドコモビジネス NTT コミュニケーションズ, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.ntt.com/business/lp/bspack/stellaai.html>
110. 深刻化するディープフェイクポルノの現状とこれからの課題 - WEB110, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://web110.com/column20241004/>
111. 第 426 回 性的ディープフェイク被害と対策 - セコム, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://www.secom.co.jp/anshinnavi/net_security/backnumber426.html
112. 生成 AI によるフェイク画像を判別する「C2PA」について解説 - Wave・Village【ウェイブ・ビレッジ】, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://freelance-engineer.jp/blog/2024/09/11/%E7%94%9F%E6%88%90ai%E3%81%AB%E3%82%88%E3%82%8B%E3%83%95%E3%82%A7%E3%82%A4%E3%82%AF%E7%94%BB%E5%83%8F%E3%82%92%E5%88%A4%E5%88%A5%E3%81%99%E3%82%8B%E3%80%8Cc2pa%E3%80%8D%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84/>
113. C2PA で誰もがデジタルコンテンツの信ぴょう性を確認可能に - TOPPAN Digital | DXnote, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://note.erhoeht-x.jp/n/n3f933499371d>

114. Content Authenticity Initiative - Wikipedia, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://en.wikipedia.org/wiki/Content_Authenticity_Initiative
115. Google、検索などに「C2PA」導入！AI生成かが分かる - リンキープス, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://linkeeps.com/google-c2pa/>
116. C2PA の取り組み デジタル時代の信頼性 - JIIMA 公式サイト, 6 月 24, 2025 にアクセス、https://www.jiima.or.jp/wp-content/uploads/im-pdf/2024_11_12.pdf
117. 私が撮影した写真です」を証明する C2PA 規格は AI 時代に必要なソリューション』～【web3&AI-テックビジネスのアイデアのタネ】2024.4.8 - note, 6 月 24, 2025 にアクセス、https://note.com/morika_wa/n/n8957b555ae9e
118. Adobe Content Authenticity (Beta), 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://helpx.adobe.com/creative-cloud/help/cai/adobe-content-authenticity.html>
119. Implementing Digital Watermarking with AI for Copyright Protection - DEV Community, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://dev.to/kartikmehta8/implementing-digital-watermarking-with-ai-for-copyright-protection-1a8l>
120. AI Content Protection: Understanding Watermarking Essentials - WordLift Blog, 6 月 24, 2025 にアクセス、<https://wordlift.io/blog/en/watermarking-for-ai-content/>
121. Forensic Watermarking for Copyright Protection - Steg.AI, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://steg.ai/products/copyright-protection/>
122. Robust Image Watermarking using Stable Diffusion - arXiv, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://arxiv.org/html/2401.04247v1>
123. Hidden in the Noise: Two-Stage Robust Watermarking for Images - arXiv, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://arxiv.org/html/2412.04653v1>
124. A Watermark-Conditioned Diffusion Model for IP Protection - arXiv, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://arxiv.org/html/2403.10893v1>
125. [2402.02333] Copyright Protection in Generative AI: A Technical Perspective - arXiv, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://arxiv.org/abs/2402.02333>
126. [2403.10893] A Watermark-Conditioned Diffusion Model for IP Protection - arXiv, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://arxiv.org/abs/2403.10893>
127. 編集履歴も全部残す、生成 AI 時代に C2PA は「当たり前」になるか？ - MIT テクノロジーレビュー, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.technologyreview.jp/s/313876/the-race-to-find-a-better-way-to-label-ai/>
128. WAVES: Benchmarking the Robustness of Image Watermarks - arXiv, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://arxiv.org/html/2401.08573v3>
129. (2/3) AI からクリエイターを守る SNS「Oneup」オタク文化愛が生む、無断学習させない仕組み, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://kaiyou.net/article/89428/page/2>
130. クリエイターのイラストを AI 学習から保護する「emamori」正式リリース - PR TIMES, 6 月 24, 2025 にアクセス、

- <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000127618.html>
131. note、AI 企業向けに学習用コンテンツの提供を本格化 収益還元モデルを 8 月より正式導入, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://ledge.ai/articles/ai-training-data-note-creator-monetization>
132. Beyond Copyright: Reddit's Lawsuit Against Anthropic | AILaw and Policy, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.ailawandpolicy.com/2025/06/beyond-copyright-reddits-lawsuit-against-anthropic/>
133. 「知的財産推進計画 2025」の策定に向けた意見 | 著作権 - 日本新聞協会, 6 月 24, 2025 にアクセス、
https://www.pressnet.or.jp/statement/copyright/241218_15644.html
134. ディープフェイク対策として政策立案者が今すぐできること - IBM Japan Newsroom, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://jp.newsroom.ibm.com/2024-03-05-Blog-Heres-What-Policymakers-Can-Do-About-Deepfakes>
135. Reddit Downplayed Impact of Google's AI-Related Changes, Suit Alleges | The D&O Diary, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.dandodiary.com/2025/06/articles/artificial-intelligence/reddit-downplayed-impact-of-googles-ai-related-changes-suit-alleges/>
136. AI の透明性とは？透明性の確保と利用のバランス - Zendesk, 6 月 24, 2025 にアクセス、
<https://www.zendesk.co.jp/blog/ai-transparency/>